

“ありのまま”の美しさ。  
それぞれの「生きる」の形。

助けをって  
楽に言える社会を  
つくりたい。

ひらひら  
ひらひら  
ひらひら

あはれ  
あはれ  
あはれ



# 生きるを 伝える写真展

in 鯖江

2019.1.17 (Thu) ~ 1.27 (Sun)

9:00~17:00 ※1.21(Mon)は休館 観覧無料

会場：鯖江市まなべの館 1階展示ホール1



かわいそつづ  
かわいそつづ  
「おんであめてる  
かわいそつづ」



母上級の  
アグセサリーは、  
えがお。



主催：鯖江市教育委員会  
協力：高橋絵麻 加藤瑞穂

## 「あなただけじゃないよ、 みんなで一緒に越えていこう」



病で髪を失った女性、その家族。  
それぞれの「生きる」の形を通して、  
ありのままの美しさを、  
そして「生きるとは何か？」を感じて欲しい。  
ひとりの乳がんサバイバーの想いが  
多くの共感を得てかたちになりました。

本展では、  
抗がん剤の副作用や  
脱毛症・抜毛症などで髪を失った  
女性たちとその家族 15 組の写真とともに、  
彼女たちが笑顔になるまでの  
それぞれの経歴や  
励まされた品などを展示します。

## Message

乳がんの告知後、いきなり暗闇に放り込まれた気がしました。でもどうせ短い命なら、やりたいことをやって生きたい！という素直な声が、肚の底からわいてきました。

「今のありのままの姿を残しておきたい」

プロのカメラマンとメイクさんに写真を撮っていただき、私は生きる力を取り戻していったのです。そして同時に、同じような状況の女性の写真を撮り、多くの人に知ってもらいたい、と思いました。

乳がんや脱毛症などの病は、とても身近な病です。だからこそ、自分のことを後回しにせず、身体と心に素直に、自分の“生きる”と向き合ってもらいたい。そんな想いを込めて、このプロジェクトをスタートさせました。

今回、私の想いに賛同していただき、多くの方からご支援・ご協力をいただくことができました。また、15 組の方々が撮影に参加してくださいました。

「髪の毛がない」というのは、ひとつの個性。逆にその人の輝きや、本質の美しさ、純粋さがシンプルに伝わってきます。

写真展にご来場いただいた皆さんが、「よし、もう少しだけ自分に正直に生きてみよう！」と思えるような、そんな写真展にしていきたいと思っています。

生きるを伝える写真展プロジェクト 発起人・主催

高橋 絵麻



Emma Takahashi

ヨガインストラクター。二児の母。2015年10月にステージ3aの乳がんを診断される。がんであることを公表し、治療と並行しながら「しこり触ってキャンペーン」を実施し、約250人が参加。現在は地域での乳がんの啓蒙活動、並びに「病になっても楽に生きていける、助け合える社会」を目指して活動を行っている。

### 鯖江市 まなべの館

〒916-0024 福井県鯖江市長泉寺町 1-9-20 Tel 0778-51-5999

<http://www.city.sabae.fukui.jp> (鯖江市ホームページ)

【アクセス】 福井鉄道福武線「西山公園駅」から徒歩 3分  
つつじバス循環線「市役所」から徒歩 3分

TREE OF HEART  
Sabae Manabe Museum

